

Innovation and energy driving forward a strong chemical company

強いケミカル・カンパニーに向けた変革と実行

株主通信

第94期 事業報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

CONTENTS

トップインタビュー	1
財務ハイライト	2
主要なセグメント情報	3
連結財務諸表	5
会社概要	6
株式情報	7





株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社の第94期の株主通信をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成29年6月

代表取締役社長 田中 健一

Q.1

第94期（平成29年3月期）の経営環境についてお聞かせください。

欧米の景気は上昇、中国経済は成長鈍化、日本経済は概ね堅調

当期の世界経済は、米国が堅調な企業業績と個人消費に支えられ緩やかな景気拡大を続け、英国のEU離脱選択の悪影響が懸念された欧州でも総じて景気は回復基調で推移しました。アジアでは、一部地域で景気持ち直しの動きが見られたものの、過剰生産設備の削減が進む中国で成長率が鈍化するなど、景気の足踏み状態が続きました。日本経済は、雇用環境の好転や企業収益の改善を背景に概ね堅調に推移しましたが、英国のEU離脱や米国新政権の政策動向などに反応して為替相場や株式市場が乱高下するなど懸念される動きも見られました。

Q.2

セグメント別の状況と当期の業績についてお伺いします。

酸化チタンは海外市況が改善、農薬は国内の新規剤投入、欧州の販売増で増収

当社グループは第6次中期経営計画の基本方針に基づき、海外販売の強化や高付加価値製品の拡販など既存事業の強化と将来の成長基盤の構築に向けた研究開発などを着実に進めてまいりました。

酸化チタンは、国内の販売数量がほぼ前期並みとなる一方、海外は需給改善を背景に前期を上回りました。金額面では、海外の需給改善を受けて輸出価格の改定に努めましたが、前期の下落分を取り戻すまでには至らず、また期半ば過ぎまで続いた円高の影響を受け減収となりました。

機能材料は、導電性材料や電子部品向けの販売が堅調に推移しましたが、初期需要の一巡により伸び悩む製品があり減収となりました。

農薬は、国内の売上については新規園芸殺菌剤や天敵農

薬の投入などもあり前期を上回りました。一方海外においても、円高の影響を受けながらも欧州で天候要因により殺虫剤が伸びた他、北米では新規菌核・灰色かび病殺菌剤の登録を追加し、また既存主力剤の適用拡大や販売地域の拡大など新たな需要開拓に向けた営業活動に注力した結果、売上は前期を上回りました。医薬については、受託製造している医薬原末の売上が前期並みとなりました。

この結果、当期の売上高は前期比13億円減の1,016億円、営業利益は前期比1億円増の84億円、経常利益は前期並で72億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比43億円減の51億円となりました。

Q.3

次期（平成30年3月期）の見通しはいかがですか？

通期実績ならびに次期の各事業の市場動向、為替見通しを踏まえ増収減益の見通し

次期の見通しにつきましては、通期の為替レートを米ドル110円、ユーロ115円と想定して、売上高1,050億円、営業利益47億円、経常利益37億円、親会社株主に帰属する当期純利益24億円を見込んでおります。

Q.4

今後の取組みについてお聞かせ下さい。

無機化学事業は高付加価値品、高機能品への販売シフト
有機化学事業は自社剤の確実な上市と海外拠点の強化

無機化学事業につきましては、酸化チタンでは、国内市場で順調に販売を伸ばしている超耐候性銘柄の海外市場で

財務ハイライト

の開拓に取り組む他、環境・省エネ意識の世界的な高まりを背景に遮熱や防汚などの機能を備えた製品の需要開拓にも注力してまいります。

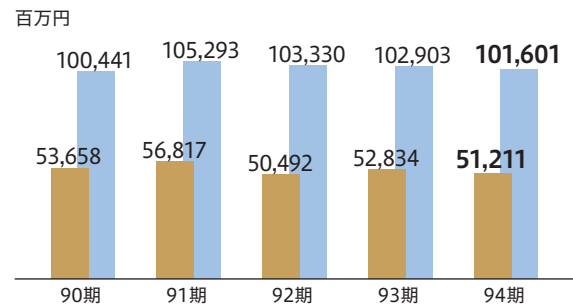
機能材料では、最先端の電子部品に使われる高純度酸化チタンや塗料、プラスチックなどに使われる帯電防止剤としての導電性材料など今後需要拡大が見込まれる製品に積極的に対応し売上拡大に繋げてまいります。

さらに、研究開発では、従来の無機・有機の技術の枠に捉われず、将来の事業成長に繋がる分野でテーマアップした研究課題にも引き続き取り組んでまいります。

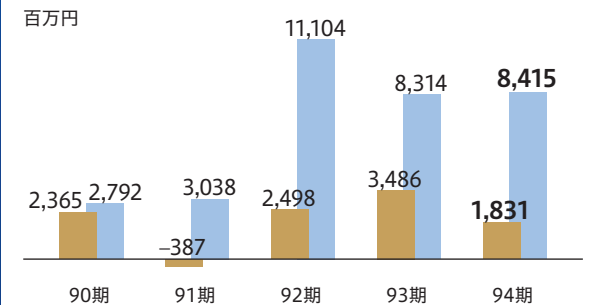
有機化学事業につきましては、主力農薬では、成長の原動力となる新規自社開発剤の確実な上市や海外ディストリビューターとの連携を深めるなどで新規剤の速やかな普及拡大と既存剤の拡販に注力する他、成長市場のひとつであるアジアにおいて農薬開発登録機能の強化を進めます。また生産面では、引き続き製造コスト低減と品質向上に取り組んでまいります。

また、将来の成長基盤作りとして動物薬やバイオ医薬品の開発に取り組んでいます。動物薬では、既に国内承認申請を終え、早期の上市を目指しております。新規バイオ抗がん剤としての開発を目指すHVJ-Eは、大阪大学医学部附属病院と連携して医師主導による臨床試験を進めています。これらの開発は、新しい分野での挑戦であり、他社や大学などの研究機関との共同開発を積極的に行い、開発のスピードアップを図ってまいります。

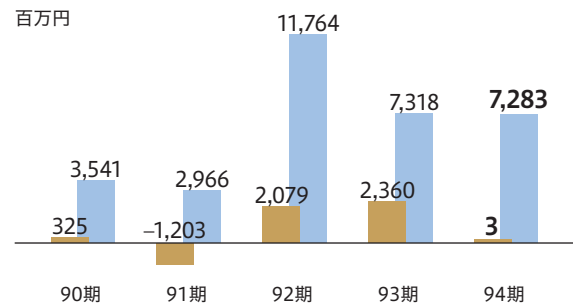
連結売上高



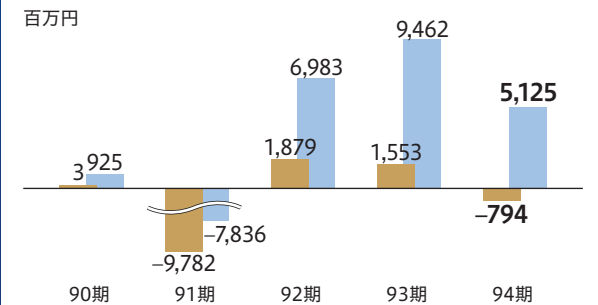
連結営業利益



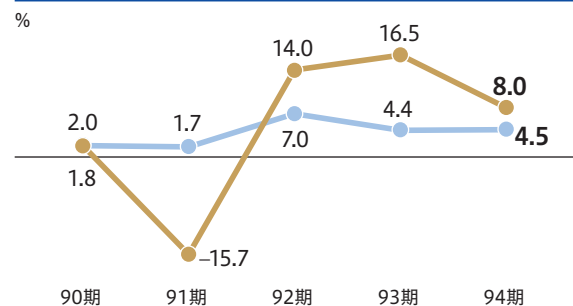
連結経常利益



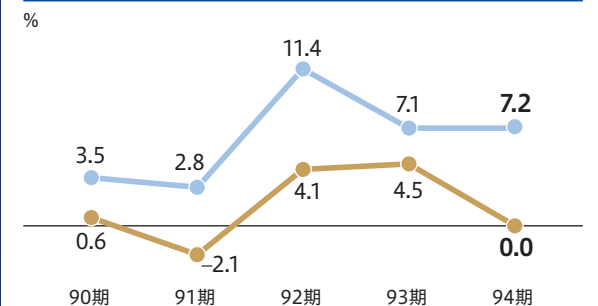
親会社に帰属する連結当期純利益



連結ROE・ROA



連結売上高経常利益率



※百万円未満を切り捨てて表示しています。

国内トップシェアの酸化チタンは高付加価値品を海外で展開

無機化学事業

売上高 **475** 億円 (△24 億円) 営業利益 **50** 億円 (+24 億円)

46.8%

セグメント
売上構成

1,01

酸化チタン



- 売上高は370 億円 (前期比12 億円減)
- 販売数量は国内が前期並、海外は需給改善に伴い前期比増
- 海外市況は需給が改善するも、期半ば過ぎまでの円高の影響を受け売上減

機能材料



- 売上高は104 億円 (前期比13 億円減)
- 導電性材料、電子部品用途向け販売は堅調
- 前期にあった新製品は、初期需要の一巡により販売減

TOPICS

100℃以下の廃熱を利用可能なコンパクト型高性能蓄熱システム開発

新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) と当社を含む民間企業4社は、産業技術総合研究所が開発した蓄熱剤「ハスクレイ」をベースに、より高性能な蓄熱剤の量産製造技術を確立し、従来型より2倍以上の蓄熱を可能とする可搬コンパクト型蓄熱システムを開発した。今後は実用化検証試験を通じて得られた知見をもとに、給湯、冷暖房等へ適用する熱利用システムとして市場展開を目指す。(詳細は当社ウェブサイトのニュースリリースのページをご参照ください。)



今後の取組み

酸化チタン |

- 付加価値の高い製品、高機能な製品へ販売をシフト
 - 超耐候性銘柄の海外市場開拓
 - 遮熱、防汚機能を備えた製品需要の開拓

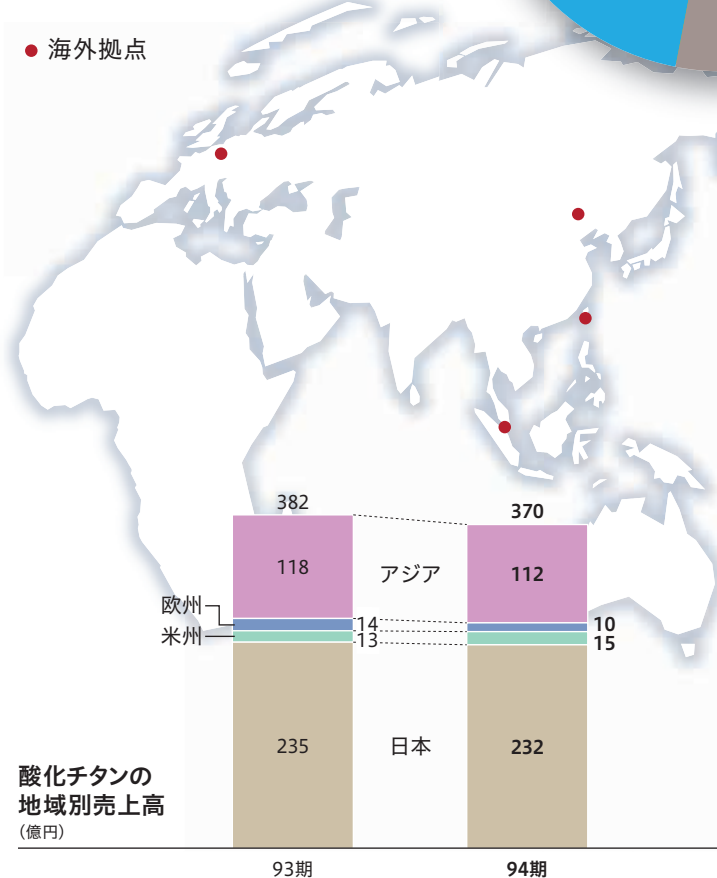
機能材料 |

- 高純度酸化チタンや導電性材料の販売拡大

事業成長に繋がる分野 |

- 無機分野、有機分野の技術の枠に捉われない新規事業の早期創出

● 海外拠点



ント別
成比率

6億円

50.3%

世界トップクラスの技術開発力で世界の農産物の安定供給を支える

売上高510億円(+15億円) 営業利益49億円(△23億円)

有機化学事業

農薬



- 売上高は504億円(前期比16億円増)
- 国内向けは新規の園芸殺菌剤、天敵農薬の投入などで売上増
- 欧州向けは、天候要因により殺菌剤が伸び増収
- 北米向けは、新規の菌核・灰色かび病殺菌剤の登録追加などで増収
- ブラジル向けは、遺伝子組み換え作物の普及により殺虫剤が減収
- アジア向けは、天候の影響を受け除草剤が減収

医薬



- 受託製造の医薬原末の売上は前期並みを維持

今後の取組み

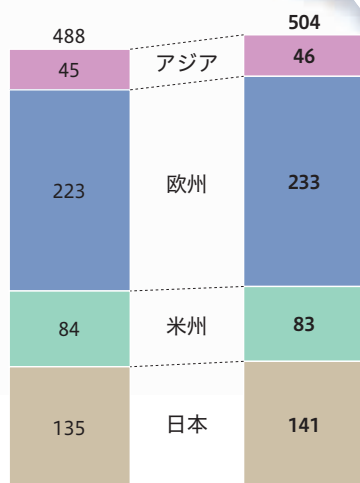
農薬 |

- 新規剤の確実な上市と普及拡大
- 海外拠点の拡充
 - 伸びゆく市場での事業基盤の整備
 - グローバルベースで生産体制を再構築し、製造コストを削減

新規事業 |

- 動物薬は、国内承認申請を終え早期上市目標、米国で臨床試験開始、欧州でも上市を計画
- HVJ-E抗がん剤は、国内で臨床試験中

農薬の
地域別売上高
(億円)



93期

94期

※ 億円未満を切り捨てて表示しています。

TOPICS

天敵農薬事業に本格参入

昨年12月に2種類の天敵カブリダニと「バンカーシート®」*をセットにした天敵農薬をJA全農の全国組織を通じて販売することを発表した。

バンカーシート®を組み合わせることにより、天敵カブリダニは耐水性に優れた隠れ場所と産卵場所が得られ、気温、湿度変化や薬剤散布からの影響を受けにくく増殖することから長期間放出するため、ハダニ類やアザミウマ類に対して優れた防除効果を有するとともに、防除コスト削減が期待出来る。

*バンカーシート®は農研機構・中央農研センターが中心になり農食事業26070Cで実用化技術を確立



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	93期 平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	94期 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
(資産の部)		
流動資産	110,483	103,997
現金及び預金	29,398	28,346
受取手形及び売掛金	25,225	25,407
たな卸資産	53,070	47,104
その他	2,789	3,138
固定資産	54,567	55,858
有形固定資産	38,733	39,183
無形固定資産	223	181
投資その他	15,610	16,493
① 資産合計	165,050	159,856

①総資産

投資有価証券が増加しましたが、たな卸資産が減少したことなどにより前期末比5,194百万円減少して159,856百万円となりました。

科目	93期 平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	94期 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
(負債の部)		
流動負債	49,725	47,310
支払手形及び買掛金	10,341	10,341
短期借入金等	27,950	27,139
関係会社整理損失引当金	24	6
その他	11,408	9,822
固定負債	53,727	45,974
社債及び長期借入金	35,727	27,780
退職給付に係る債務	12,957	12,602
その他	5,042	5,590
② 負債合計	103,453	93,284
(純資産の部)		
株主資本	63,407	68,526
資本金	43,420	43,420
資本剰余金	10,626	10,626
利益剰余金	10,062	15,188
自己株式	△ 702	△ 709
その他の包括利益累計額合計	△ 1,809	△ 1,955
③ 純資産合計	61,597	66,571
負債純資産合計	165,050	159,856

②負債

長期借入金が減少したことなどにより前期末比10,168百万円減少して93,284百万円となりました。

③純資産

為替換算調整勘定が減少しましたが、当期純利益5,125百万円を計上したことなどにより前期末比4,973百万円増加し、66,571百万円となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	93期 平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	94期 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
④ 売上高	102,903	101,601
売上原価	71,534	70,623
売上総利益	31,369	30,978
販売費及び一般管理費	23,054	22,562
⑤ 営業利益	8,314	8,415
営業外収益	1,809	1,015
営業外費用	2,805	2,147
経常利益	7,318	7,283
特別利益	7,333	32
特別損失	2,297	1,567
税金等調整前当期純利益	12,354	5,748
法人税等	2,892	622
当期純利益	9,462	5,125
⑥ 親会社株主に帰属する当期純利益	9,462	5,125

④売上高

無機化学事業は、酸化チタンでは海外での需給改善を受けて輸出価格の改定に努めましたが、円高の影響などにより減収となり、機能材料も導電性材料や電子部品向けの販売が堅調に推移する一方で初期需要一巡により出荷の無い製品があったことなどから減収となり、前期を下回りました。有機化学事業は、主力の農業が国内では新規の園芸殺菌剤や天敵農薬の投入などで増収となり、海外でも欧州で天候要因により殺虫剤が伸びたほか、新規の菌核・灰色かび病殺菌剤登録国の北米での追加や、既存主力剤の適用拡大・販売地域拡大を進めたことなどにより増収となり、前期を上回りました。これらの結果、全体では前期比1,301百万円の減収となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	93期 平成27年4月1日～ 平成28年3月31日	94期 平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー	10,268	14,631
⑧ 投資活動によるキャッシュ・フロー	9,656	△ 5,950
⑨ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,920	△ 9,627
現金及び現金同等物に係る換算差額	△77	△ 106
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	7,927	△ 1,052
現金及び現金同等物の期首残高	21,281	29,208
⑩ 現金及び現金同等物の期末残高	29,208	28,156

⑤営業利益

有機化学事業は主力の農業が円高の影響を受けて減益となりましたが、無機化学事業が海外市況回復や原材料価格低下などに伴う酸化チタンの採算改善により増益となり、全体では前期比100百万円の増益となりました。

⑥親会社株主に帰属する当期純利益

前期に計上した固定資産売却益がなくなったことなどにより前期比4,336百万円の減益となりました。

⑦営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益5,748百万円の計上、たな卸資産の減少などにより14,631百万円の収入(前期比4,363百万円の収入増)となりました。

⑧投資活動によるキャッシュ・フロー

固定資産の取得、投資有価証券の取得などにより、5,950百万円の支出(前期比15,607百万円の支出増)となりました。

⑨財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金の返済などにより、9,627百万円の支出(前期比2,293百万円の支出減)となりました。

⑩現金及び現金同等物

現金及び現金同等物は前期末より1,052百万円減少し、28,156百万円となりました。

※ 百万円未満を切り捨てて表示しています。

会社概要

— 石原産業グループ基本理念 —

- 「社会」、「生命」、「環境」に貢献する。
- 株主・顧客・取引先・地域社会・従業員を大切にすること。
- 遵法精神を重んじ、透明な経営を行う。

会社概要

(平成29年3月31日現在)

商 号 石原産業株式会社
英 文 商 号 ISHIHARA SANGYO KAISHA, LTD.
本 社 〒550-0002
大阪市西区江戸堀一丁目3番15号
TEL:06-6444-1451(総務部)
設 立 昭和24年6月1日
資 本 金 43,420,548,178円
従 業 員 数 1,078名
事 業 所 大阪本社、中央研究所、四日市工場、東京支店、中部支店、札幌営業所、仙台営業所、福岡営業所、アルゼンチン支店、シンガポール支店、北京駐在員事務所

役 員

(平成29年6月29日現在)

代表取締役社長 田中 健一
取締役 新 道義
取締役 本多 千元
取締役 松江 輝明
取締役 加藤 智洋
取締役 米村 紀幸(社外取締役)
取締役 勝又 宏(社外取締役)
常勤監査役 加藤 泰三
常勤監査役 秋國 仁孝(社外監査役)
監査役 播磨 政明(社外監査役)

主なグループ会社

(平成29年3月31日現在)

連結子会社(海外)

- ベルギー ●ISK BIOSCIENCES EUROPE N.V.
欧州農業事業統括及び農薬の製剤・販売
- 台 湾 ●台湾石原産業股份有限公司
無機製品の販売
- アメリカ ●ISK AMERICAS INCORPORATED (オハイオ)
米国所在子会社の統括管理
- ISK BIOSCIENCES CORPORATION (オハイオ)
米州における農薬の登録及び市場開発
- ISK MAGNETICS, INC. (オハイオ)
資産管理
- ISK BIOCIDES, INC. (テネシー)
木材防腐剤の製造及び販売
- ISHIHARA CORPORATION (U.S.A) (カリフォルニア)
主として無機製品の販売

連結子会社(国内)

- 石原バイオサイエンス株式会社
農薬の販売
- 石原テクノ株式会社
商社業(無機、有機及びその他)
- 富士チタン工業株式会社
酸化チタン、電子材料等の製造及び販売
- 石原エンジニアリングパートナーズ株式会社
建設業
- 四日市エネルギーサービス株式会社
産業用電力及び蒸気の生産、供給、販売

ホームページのご案内

ホームページでは、IR情報等、株主のみなさまに有益な情報を多数発信しておりますのでごらんください。

トップページ



IR情報



<http://www.iskweb.co.jp>

石原産業

検索

株式情報

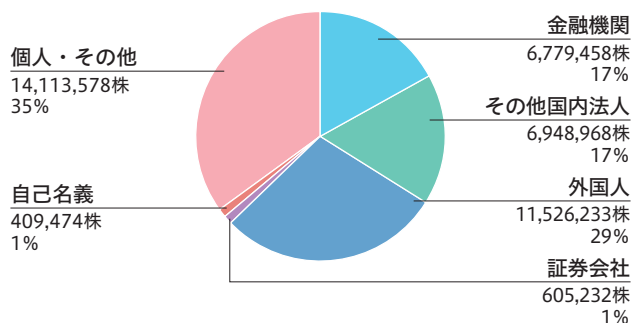
株式の状況

(平成29年3月31日現在)

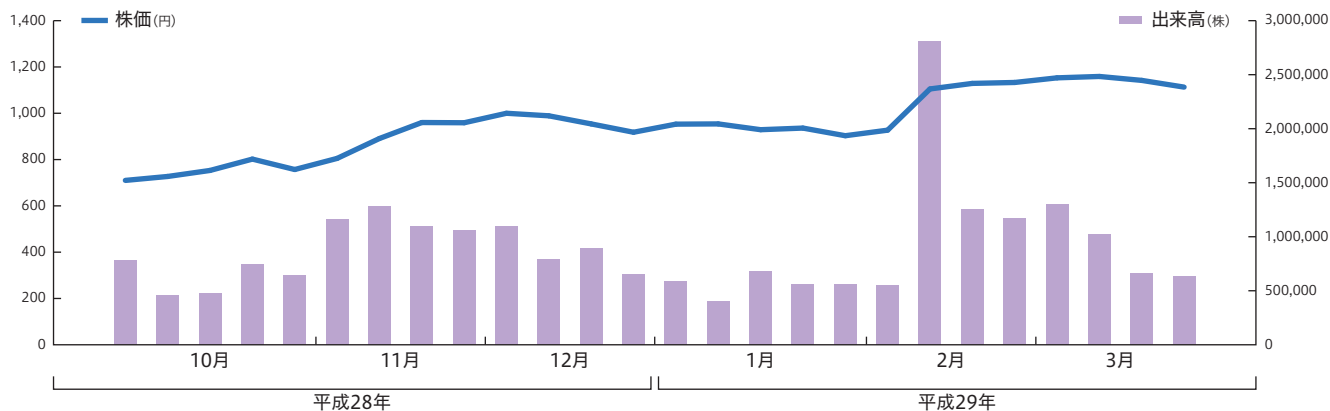
発行可能株式総数 1億株
発行済株式の総数 40,383,943株
株主数 31,957名

株式所有者別分布状況

(平成29年3月31日現在)



株価と出来高の推移



大株主

(平成29年3月31日現在)

株主名	株式数(千株)
三井物産株式会社	2,019
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES PARIS/JASDEC/FBB SEC/BELCHIM MANAGEMENT	1,800
東亜合成株式会社	1,722
ユーピーエルジャパン株式会社	1,170
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,143
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	938
GOVERNMENT OF NORWAY	893
ISK交友会	837
石原産業従業員持株会	797
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	706

(注)株式数は株主名簿上の数で千株未満を切り捨てて記載しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当:毎年3月31日
中間配当:毎年9月30日
単元株式数 100株
公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
当社ホームページアドレス
<http://www.iskweb.co.jp>
株主名簿管理人及び特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

単元未満株式(100株未満の株式)について

当社の株式は1単元が100株となっています。株主様がご所有の単元未満株式(100株未満)につきましては、市場で売買できない、株主総会で議決権を行使できないなどの制約があります。もし、そのような単元未満株式をお持ちでしたら、買増制度、買取制度をご利用ください。